

石川県漁海況情報



422号

2019年3月18日発行

石川県水産総合センター 電話 0768-62-1324 FAX 0768-62-4324

ホームページ <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/suisan/center/sigenbu.html>

携帯電話 http://www.pref.ishikawa.lg.jp/mobile/suisan/center/sigenbu_files/p-index.html



本号の概要

サヨリの漁況の見通し（予報期間:3月～5月）

- 船びき網等によるサヨリの水揚量は、近年低水準で推移しています。
- 主要港におけるサヨリの水揚量は前年および過去5年平均を上回る見込みです。

石川県主要港の水揚状況（期間:2月16日～28日）

- 定置網ではブリ・カタクチイワン、まき網ではブリなどが好調でした。

水産総合センター・トピックス

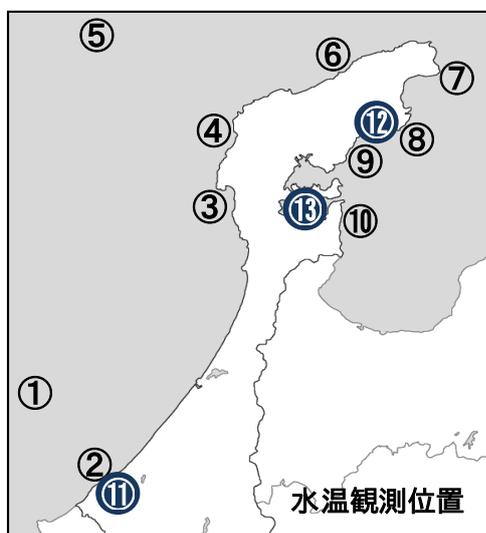
- 「第24回全国青年・女性漁業者交流大会が開催されました」「いしかわの魚の移り変わり」

石川県周辺海域の水温（期間:3月6日～10日）

■ **沿岸の海面水温** 3月10日の本県周辺（海岸線より30海里程度）の海面水温は10～11℃台で、過去5年平均との差は+0.5～+1.0℃程度でした。

■ **沿岸観測ブイの水温** 今期の水温は11.1～11.4℃で、2月中旬から約0.3℃低下しました。前年同時期との差は+1.0～+1.5℃、過去3年平均との差は+0.1～+0.9℃でした。

■ **港内の水温** 今期の水温は11.3～11.5℃で、前年同時期との差は+1.5～+2.2℃、過去3年平均との差は+0.8～+1.2℃でした。



沿岸観測ブイの水温（深度10mの値）

観測位置	5日間平均 3/6～3/10	前年差	過去3年 平均差
① 橋立沖	11.4	+1.0	+0.1
② 橋立沿岸	休止中	データなし	データなし
③ 富来沿岸	休止中	データなし	データなし
④ 門前沿岸	休止中	データなし	データなし
⑤ 猿山岬沖	休止中	データなし	データなし
⑥ 曾々木沿岸	休止中	データなし	データなし
⑦ 小泊沿岸	11.2	+1.5	+0.9
⑧ 小浦沿岸	11.2	+1.2	+0.6
⑨ 鶴川沿岸	11.2	+1.2	+0.6
⑩ 岸端沿岸	11.1	+1.2	+0.6

港内の水温（深度1.5m・午前9時の値）

観測位置	5日間平均 3/6～3/10	前年差	過去3年 平均差
⑪ 橋立港	11.3	+1.7	+0.9
⑫ 宇出津港	11.5	+1.5	+0.8
⑬ 石崎港	11.3	+2.2	+1.2

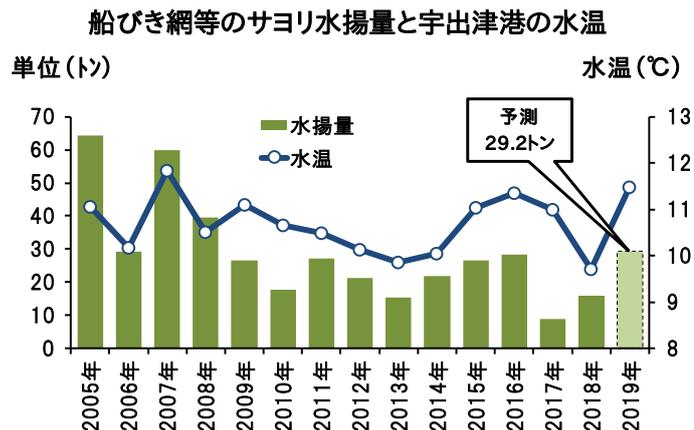
サヨリの漁況の見通し（予報期間:3月～5月）

■ 石川県では、季節を代表する水産物を「石川の四季のさかな」とし、春の魚としてサヨリを選定しています。サヨリは主に2隻の船で網を曳く船びき網により漁獲され、主漁期は3～5月です。

■ 県内主要港の3～5月の船びき網等によるサヨリの水揚量は、1998年には163.0トンありましたが、その後減少し、2010年以降は10～30トン程度で推移しています。この長期的な水揚量

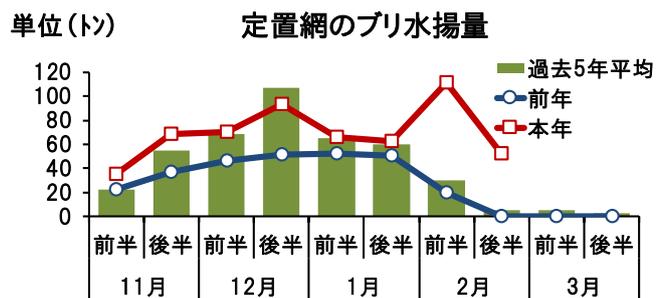
の減少の主な理由としては、操業隻数の減少があげられます。一方、近年の水揚量の変動と沿岸水温（宇出津港内の水温）との関係を調べたところ、一部例外的な年はあるものの、2月下旬～3月上旬の沿岸水温が低いほど、3～5月の水揚量が少ない傾向がみられました。

■ 今年2月下旬～3月上旬の宇出津港の平均水温は11.5℃でした。この値を水温と水揚量の関係式に当てはめると、今年3～5月の主要港の船びき網等による水揚量は29.2トンと推定され、前年（16.0トン）および過去5年平均（20.4トン）を上回ると予想されます。



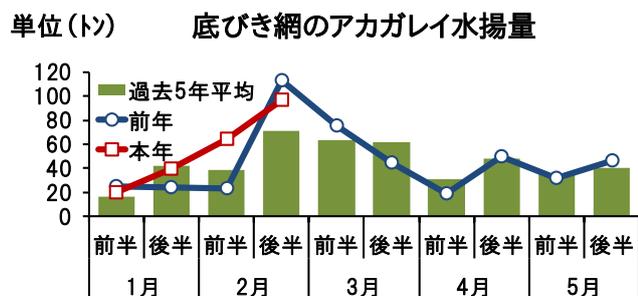
石川県主要港の水揚状況（期間:2月16日～28日）

■ **定置網** スルメイカ・カタクチイワシ・マアジ・マダラは前年を上回り、マイワシは前年を下回りました。ブリは46トン水揚げされました。11月前半から2月後半までの累計は560トンで、前年（281トン）および過去5年平均（414トン）を上回りました。



■ **まき網** ブリ主体の水揚げで、前年を上回りました。

■ **底びき網・ごち網** ニギス・ハタハタ・フグ類は前年を上回り、アカガレイ・アマエビは前年並み、マダラ・ズワイガニは前年を下回りました。アカガレイは97トン水揚げされました。1月前半から2月後半までの累計は221トンで、前年（186トン）並みで、過去5年平均（168トン）を上回りました。



■ **刺網・釣り・その他** ガンド・マダラ・ナマコは前年を上回り、ベニズワイガニ・アマエビは前年並みでした。

集計期間 2月16日～2月28日 (水揚量の単位はトン)

魚種	水揚港							期間合計	
	橋立	金沢	富来	輪島	珠洲地区	宇出津	七尾地区	本年	前年
定置網									
するめいか					0.4	9.4	54.4	64.3	9.7
ぶり					0.6	12.8	32.0	45.5	0.5
かたくちいわし					27.7	0.6	5.5	33.7	0.7
まあじ					4.5	4.1	6.3	14.9	4.9
めじ(カマクラ)					0.1	0.8	9.5	10.4	
まだら			0.1		1.6	3.9	3.7	9.3	6.0
さば					0.2	0.3	6.7	7.2	2.5
かわはぎ(カマヅラ)					0.0	1.6	4.9	6.5	2.7
やりいか					1.1	1.3	1.9	4.3	1.6
まいわし					0.6	0.2	2.6	3.4	3070.8
うるめいわし					0.0	0.1	2.6	2.7	
ふくらぎ・こそくら					0.1	1.4	0.1	1.6	1.0
ふぐ類			0.0		0.1	0.7	0.5	1.4	1.9
その他			0.0		0.8	8.5	8.2	17.5	6.7
合計			0.1		38.0	45.8	138.8	222.7	3109.0
まき網									
ぶり		126.3					25.3	151.6	68.8
さば		37.4						37.4	0.0
がんど		28.8					1.7	30.5	0.0
まあじ		0.6						0.6	
その他		0.4					0.0	0.4	0.3
合計		—	193.5				—	220.4	69.1
底びき網・ごち網									
あかがれい	65.9	7.5	4.4	18.8	0.6			97.1	112.8
にぎす	4.0	34.0	14.8	5.0				57.8	38.7
はたはた	10.9	3.6	1.9	6.4	2.5	5.0		30.2	12.5
あまえび	0.3	4.1	15.1	10.2	0.1			29.7	36.6
まだら	2.5	2.2	1.3	9.8	1.3			17.0	31.1
ふぐ類	0.5	0.3	6.1	8.5				15.4	1.8
ずわいがに	0.2	6.5	0.1	2.2	2.4			11.4	20.8
そうはち	3.3	1.4		2.6	0.0			7.3	5.7
みずうお(ノカヅガ)	0.6	4.9	0.8	0.6	0.0			7.0	15.1
その他	9.6	15.4	7.9	20.3	1.1	0.6		54.9	39.1
合計	97.7	79.7	52.4	84.5	7.9	5.6	—	327.8	314.2
刺網・釣り・その他									
がんど				31.6	0.1			31.8	11.5
べにずわいがに		29.9						29.9	33.4
まだら	0.1	0.0	1.3	0.0	2.2	14.9	3.0	21.6	10.7
あまえび			18.6					18.6	17.2
なまこ			0.2	0.0	1.2	13.8	1.2	16.3	7.6
みずだこ	0.0	0.0	0.0	9.3	0.2	0.2	0.1	9.8	6.4
ふぐ類	0.0		0.9	6.2		0.0	0.0	7.1	2.7
ぶり				5.5	0.0	0.0	1.0	6.5	6.2
その他	3.2	2.5	5.1	15.0	3.7	11.6	13.2	54.3	46.9
合計	3.3	32.3	26.1	67.7	7.4	40.5	18.4	195.8	142.5
総計	101.1	305.5	78.6	152.2	53.3	91.8	184.2	966.7	3634.8

注:宇出津は松波港を含む、富来・輪島は一部未集計

第24回全国青年・女性漁業者交流大会が開催されました

■ 平成31年2月28日(木)、3月1日(金)東京都内において第24回全国青年・女性漁業者交流大会が開催されました。大会では、全国の青年、女性漁業者グループが日頃の研究・実践活動の成果を発表するとともに、参加者間の交流が行われました。

■ 石川県からは石川県漁協穴水支所の齋藤義己(さいとうよしみ)さんが、都内から穴水町に移住して、カキ養殖業を営んできたこれまでの取組みや活動について発表を行い、JF全国女性連・漁青連会長賞を受賞しました(右写真)。

■ 審査員からは、1ターンの就業にあたり、身の丈にあった経営で自立ができている点、生産したカキを自前のレストランで販売するなど自己完結ができている点などが評価されました。

■ 齋藤さんには今回の受賞を励みに、今後もカキ養殖経営の発展に取り組んで頂くとともに、当センターとしても引き続き技術指導など支援していきたいと考えています。

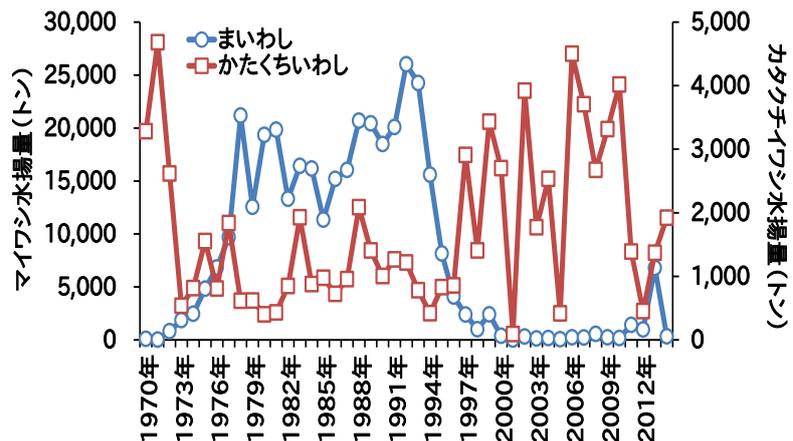


いしかわの魚の移り変わり (2月16日公開セミナー講演概要)

■ 石川県では四季折々の様々な魚が漁獲され、豊かな食文化を支えているほか、訪れる観光客にとっての魅力にもなっています。一方で、魚には好漁不漁といった変動があります。この漁模様の良し悪しには様々な要因がありますが、資源の変動が大きな要因になっています。

■ 日本周辺海域の魚類資源に

ついては、マイワシとカタクチイワシの関係に代表される、魚種交替という現象が知られています。これはマイワシとカタクチイワシが数十年規模の周期で交互に増えたり減ったりを繰り返すというダイナミックな資源変動で、地球規模の気候・環境変動によって引き起こされているとの説が有力です。この魚種交替は石川県内の水揚量でも確認でき(上図)、海の魚の生態系を考える上で重要なイベントです。他の魚においても程度の差こそあれ、このような十～数十年単位の変動を繰り返すものは多くいます。水揚げされる魚全体を見ると、十年程度の単位で主要魚種の顔ぶれがガラッと変わることがわかってきました。石川県内の漁獲の変動についても、周辺の水温だけでなく、地球規模の環境変動の影響が強いという結果も得られており、今後さらなる研究が求められます。



石川県定置網水揚量(北陸農政局発行、石川県農林統計より)